

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業  
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 小林市 (都道府県:宮崎県)

1.当該地域の情報(令和5年3月現在)

<p>地域の課題</p>	<p>本市人口における在住外国人比率は1.31%(2022年12月現在)で、この10年間で約2倍に増えている。近年、人手不足による外国人人材への労働力としての期待が高まっているが、本市においても例外ではなく、現状として技能実習生は増加傾向にある。一方、本市ではここ数年、火山噴火や台風被害などの自然災害が発生しており、これらの災害に慣れていない在住外国人は、いざというときに的確な行動をとることができないことが予想され、災害時の情報伝達・共有体制の検討が急務である。</p> <p>2021年に在住外国人向けアンケートを実施し、在住外国人は、本市での生活において日本語が通じないことによって不便を感じていることが分かった。さらに昨今のコロナ感染拡大の影響で「コロナの影響で不安で気持ちが落ち着かない」「コロナの影響で仕事がなくなった」「コロナの影響で収入が減った」と回答する外国人市民が多数いることが分かった。</p> <p>本市のように在住外国人の80%以上が技能実習生である地域においては、技能実習生を対象とする日本語教室も必要であるが、3年以上本市で生活する在住外国人が日本の習慣を学ぶ教室も必要であり、この2つのニーズへの対応が求められた。今年度は市内全在住外国人を対象とし、その際には市内中心部だけでなく、教室が地域に出向いていくアウトリーチ型の地域日本語教室も開催した。</p> <p>また4年目は、地域のサポーターも一緒に活動を行っていくことから、地域日本語教室で活動するサポーター養成講座フォローアップを開催した。</p> <p>なお、以上の事業の実施にあたっては、本市在住の外国人やその外国人を雇用する企業の実態を丁寧に把握することに努め、ニーズにあったものとなるようできる限り配慮した。</p>
<p>在住外国人数 外国人比率</p>	<p>559人(2022年12月31日)1.31%</p>
<p>在住外国人の 状況</p>	<p>【主な国籍】22か国から来日、在住している。(2022年12月31日現在) 1位 ベトナム(251人)、2位 フィリピン(67人)、3位 インドネシア(62人)、4位 ミャンマー(57人)、5位 中国(49人)、6位 カンボジア(23人)、7位 アフガニスタン(11人)、7位 タイ(7人)、7位 ネパール(7人)、9位 韓国(6人)、10位 ドイツ(3人)、10位 米国(3人)</p> <p>【在留資格】(2022年12月31日現在) 1位 技能実習1号口(162人)、2位 特定技能1号(86人)、3位 技能実習2号口(84人)、4位 技能実習3号口(83人)、5位 永住者(67人)、6位 家族滞在(18人)、7位 日本人の配偶者等(13人)、8位 特定活動(12人)、9位 定住者(11人)、10位 技術・人文知識・国際業務(9人)</p> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】(2022年6月1日現在) 1~3年の滞在年数では、技能実習2号口が183人(51%)、特定技能58人(16%)を占め、4年以上の滞在では、技能実習3号口が48人(45%)、永住者が14人(13%)、特定技能が11人(10%)となっている。10年以上滞在している外国人住民では、永住者が46人(94%)、日本人の配偶者等が2人(4%)、定住者が1人(2%)となっている。</p> <p>2021年4月1日現在と比較すると、4年以上滞在している在住外国人は技能実習2号口(76人)が最も多かったが、2022年6月1日には技能実習3号口(48人)が最も多く増加している。</p> <p>在留資格で認められた範囲で就労できる在留資格の在住外国人は、全体的に見ると減少傾向だが、1~3年の滞在年数では技能実習2号口と特定技能が増加傾向にあることが確認され、4年以上滞在している技能実習3号口と特定技能が増加・微増傾向にある。制限なく働くことができる在留資格を取得している外国人住民は増減することなく一定数在住していることが分かる。</p>
<p>在住外国人の 日本語教育の現状</p>	<p>外国人住民が個人で同国出身の日本人の配偶者等を対象に日本語勉強会を開催していたが、次第に参加者が減少してきたことから、継続を断念せざるを得なかったというケースが過去にあった。行政としては、外国人住民の増加を受け、2017年度から月に1回程度の間隔で、年6回、外国人住民への生活情報の提供や日本人市民との交流を目的とした「にほんごサロン」という交流活動を実施していた。しかし、外国人参加者・日本人参加者の双方のニーズを充足できるところまでには至っておらず、日本語教育の場としては不十分なものであった。</p> <p>本事業と同時期に、2020年3月に「小林市国際化・多文化共生推進計画」を策定し、本市における外国人市民への支援策として「外国人市民の生活を支えるために日本語習得を支援する」と明記し、今後の日本語教育支援の方針が明確となった。</p>

	昨年度は、市内の外国人市民を対象に地域日本語教室を開催した。全7回の教室活動を実施し、内2回は地域日本語教育サポーター(日本語ボランティア)も加わり、日本人・外国人市民との対話が生まれた。教室が対面からオンラインへと変更になった教室が2回あった。
--	---

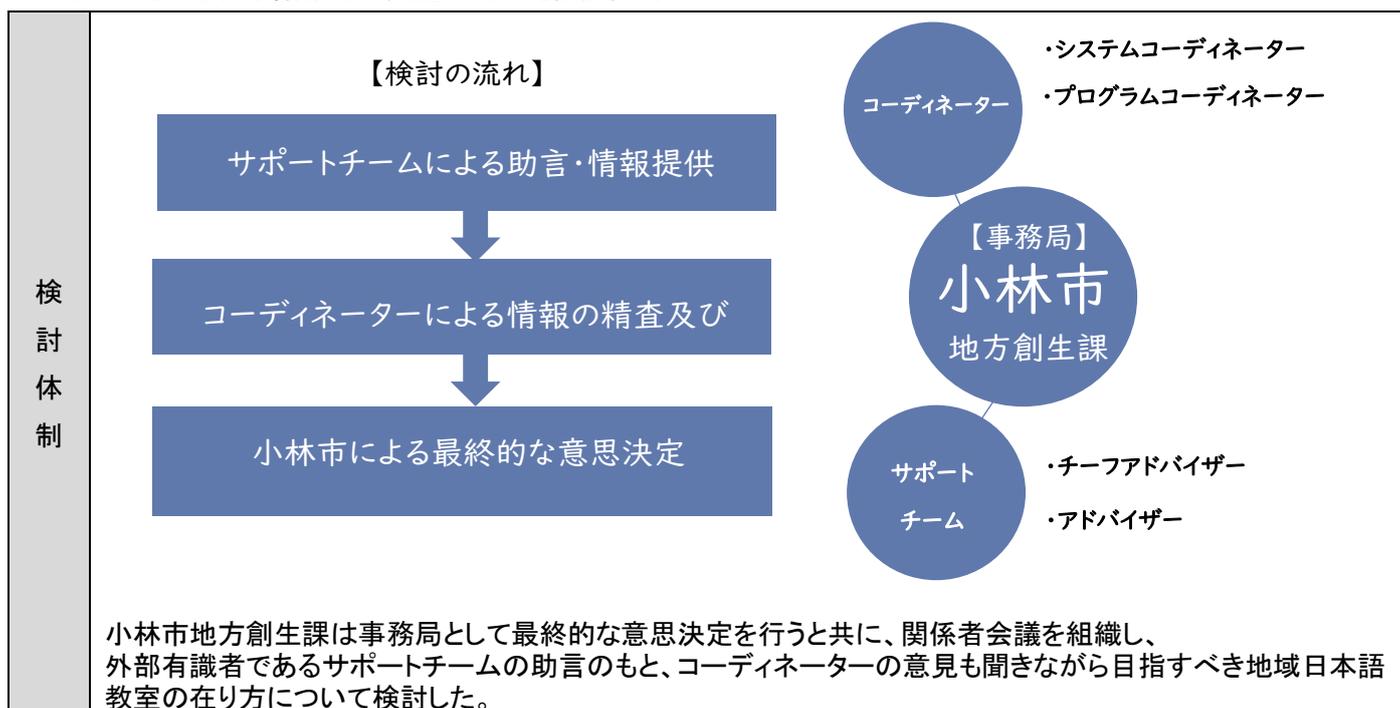
## 2.事業の内容

本プログラム取組年数	4年目			
事業の目的	<p>本市の外国人住民を在留資格別に見ると、技能実習生の割合が最も多いものの、永住者や日本人の配偶者等などの様々な在留資格を持つ外国人もおり、その在留資格及び生活環境によってニーズが異なっている。昨年度は市内中心部で行う教室とアウトリーチ型の教室を実施する予定だったが、県内コロナ感染拡大の影響で中心地教室のみ実施した。今年度、市内在住の外国人市民を対象に地域日本語教室を中心地とアウトリーチ型教室で開催した。</p> <p>本市が目指す将来の小林市のあるべき姿は、「民族の違いを超えたすべての市民にとって誰もが安心して、快適に過ごせる小林市」である。これを達成するためには、全市民が一丸となって取り組むことが不可欠である。そこで、今年度は交通機関の限られる散在地区の外国人市民にも教室へ参加できるよう、教室を2拠点にして行った。本市で生活する外国人住民に必要な日本語習得を支援するとともに、在住外国人を地域社会の一員として受け入れる多文化共生社会形成の施策の一つとして日本語教育を実施した。そのためにも、コーディネーターを更に増員し今後の地域日本語教室の活動を更に展開した。また、4年目は、昨年度養成した地域日本語教育サポーターも一緒に活動し、小林市の地域日本語教室 KIZUNA を開催した。</p> <p>なお、以上の事業の実施にあたっては、本市在住の外国人の実態を丁寧に把握することに努め、ニーズにあったものとなるようできる限り配慮した。</p>			
事業の概要	<p>(1) 地域日本語教育サポーター養成講座(フォローアップ編)(サポーターのスキルアップのための講座)</p> <p>(2) 地域日本語教室「KIZUNA」(対話中心の対面型地域日本語教室とアウトリーチ型教室の実施)</p> <p>(3) 職員研修(窓口対応職員向け やさしい日本語と窓口対応実践編)</p> <p>(4) 小林市地域日本語教育フォーラム(事業の振り返りをアドバイザー、サポーター、プログラムコーディネーター、システムコーディネーターと実施)。</p>			
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月			
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	<p>3年目は、昨年度のプレ教室での成果を基にさらに検討を重ね、教室を安定して運営していくためサポーター養成講座やコーディネーター講座を開催することとした。その結果、県・県国際交流協会と連携し、サポーターの人材育成にも力を入れ、講座終了後に14名のサポーター登録があり、今年度の教室活動が広がることが期待される。また、日本語教師の増員を狙って行ったコーディネーター講座で1名の日本語教師を獲得し計3名の日本語教師で対話型の地域日本語教室を2名の日本語教師で実施できた。地域日本語教室 KIZUNA では、様々な背景を持つ外国人住民が教室に参加し、毎回テーマを生活に根ざしたものにし、対話を中心に教室を開催できた。コロナ禍でオンライン授業へと変更になった回もあったが、参加者も普段と違った教室に積極的に参加した。</p>			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	李 妍	—	—	日本語教室活動に関する業務(準備・補助等、参加者・サポーターへの連絡、教室活動記録・振り返り、教材作成に係る活動) 企業や学習者、サポーターなど教室に関わる参加者のニーズ把握
	中村 真由美	—	—	日本語教室活動に関する業務(準備・補助等、参加者・サポーターへの連絡、教室活動記録・

				振り返り、教材作成に係る活動) 企業や学習者、サポーターなど教室に関わる参加者のニーズ把握
	柘崎 黎捺	—	—	日本語教室活動に関する業務(準備・補助等、参加者・サポーターへの連絡、教室活動記録・振り返り、教材作成に係る活動) 企業や学習者、サポーターなど教室に関わる参加者のニーズ把握
	田中 利砂子	南九州短期大学/国際教養学科	講師	学習内容検討への助言 学習者、サポーター等のニーズ把握への助言
	満留 由紀子	地方創生課	国際化推進コーディネーター	事業全体のコーディネート 地域のリソース等の把握 地域の外国人の状況の把握 行政・関係機関との連絡調整
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	平高 史也	愛知大学	特任教授	<span style="border: 1px solid black;">継続</span> ・新規(4年目)
	高柳 香代	多文化共生ネット・九州	主宰	<span style="border: 1px solid black;">継続</span> ・新規(4年目)
	深江 新太郎	NPO 多文化共生プロジェクト	代表	<span style="border: 1px solid black;">継続</span> ・新規(4年目)

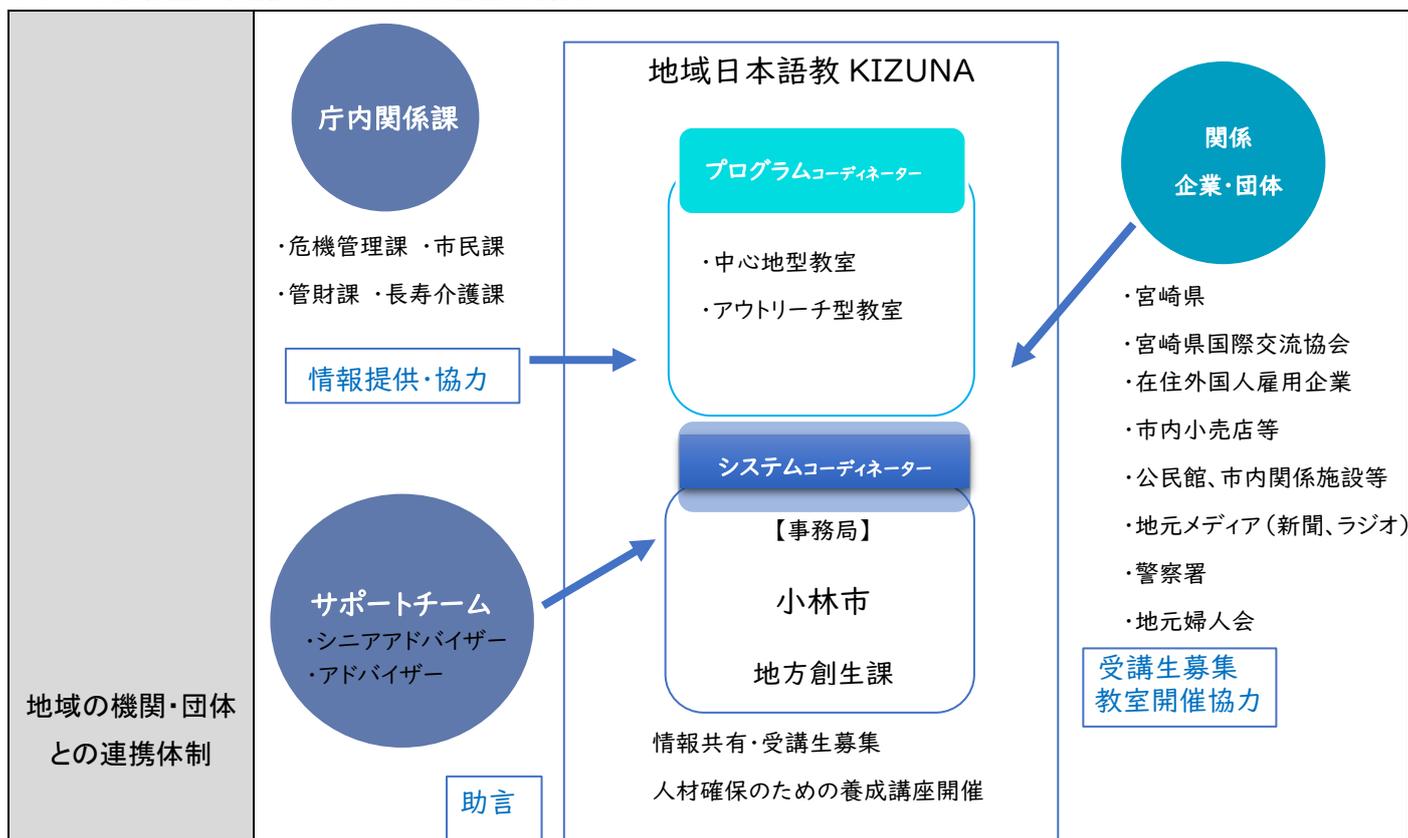
### 3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

#### (1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



所属(担当課)	職名	担当者名
愛知大学文学部	特任教授 慶應義塾大学名誉教授	平高 史也
NPO 多文化共生プロジェクト	代表	深江 新太郎
多文化 design コンパス	代表	高柳 香代
南九州短期大学	講師	田中 利砂子
—	—	李 妍
—	—	中村 真由美
—	—	柊崎 黎捺
小林市地方創生課	課長	森岡 康志
小林市地方創生課	主幹	池北 諭子
小林市地方創生課	国際化推進コーディネーター	満留 由紀子
小林市地方創生課	主幹	池北 諭子

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



本市の現況に最も適した日本語教育をつくり上げるために現状把握と問題点の明確化を行い、本市が実現可能な日本語教育の在り方を検討した。まずは、本市関係各課の連携を促進するために、アドバイザーの助言とコーディネーターのサポートのもと、市政における外国人施策の重要性の周知を図った。

さらに、地域で在住外国人と関わりのある/関わりを持ちたい企業・団体・住民に対しても市の地域日本語教育の取り組みや外国人施策に対する理解を深めるための養成講座を行うとともに、今後の日本語教育の普及に向けた基礎を整備するためのニーズ調査を実施した。なお、様々な関係団体（宮崎県・宮崎県国際交流協会・みやざき外国人サポートセンター等）と連携し養成講座や地域日本語教室を実施した。この際、アドバイザーと日本語教育専門家で助言、サポートしていった。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
愛知大学	-	特任教授 慶應義塾大学名誉教授	平高 史也
NPO 多文化共生プロジェクト	-	代表	深江 新太郎
多文化 design コンパス	-	代表	高柳 香代
南九州短期大学	国際教養学科	講師	田中 利砂子
宮崎県	オールみやざき 営業課国際交流担当	主任主事	泰田 優花

宮崎県国際交流協会	-	宮崎県地域日本語教育体制整備事業 総括コーディネーター	神 祐子
小林市	地方創生課	課長	森岡 康志
小林市	地方創生課	主幹	池北 諭子
小林市	地方創生課	国際化推進 コーディネーター	満留 由紀子
小林警察署	警備課	課長	茶木 宏
小林警察署	警備課	巡査長	伊東 光
ゲンゼ	総務課	課長	井田 裕久
ゲンゼ	総務課	労務係長	富永 誠

#### 4. 具体的な取組内容

##### (1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 6月	企業訪問(ニーズ把握、地域日本語教室説明等)【6/16】  コーディネーター会議【6/17, 6/30】 計画書作成  地域日本語教育サポーター養成講座準備 職員研修準備	*野尻地区事業所の現状把握と教室開催に向けての企業・事業所へのヒアリング(満留)  *計画書作成準備・作成(コーディネーター(以下CD))  *地域日本語教育サポーター養成講座や職員研修の内容検討・講師との協議(満留)	
令和4年 7月	第1回関係者会議(キックオフミーティング)【7/6】  計画書作成  地域日本語教育サポーター養成講座準備  職員研修準備  KIZUNA準備・野尻地区アウトリーチ:KIZUNA準備	*会議で使用する計画書の作成とその他補助資料作成  *計画書作成準備・作成(CD)  *地域日本語教育サポーター養成講座の内容検討・講師との協議(満留、李)  *職員研修内容検討・日程調整(満留)  *教室運営準備、場所、日にち、時間帯、野尻地区の内容検討(CD)	平高氏(遠隔) 高柳氏(遠隔) 深江氏(遠隔) 事業計画について検討(オンライン)
令和4年 8月	企業訪問(ニーズ把握、地域日本語教室説明等)【8/12】  地域日本語教育サポーター養成講座準備・開催【8/27】  KIZUNA準備・野尻地区アウトリーチ:KIZUNA準備  職員研修準備	*市内事業所の現状把握と教室開催に向けての企業・事業所へのヒアリング(満留)  *地域日本語教育サポーター養成講座の案内・運営(満留)  *教室運営準備、チラシ作成、野尻地区打合せと訪問・説明(CD)  *職員研修内容検討・資料作成補助(満留)	深江アドバイザー★

令和4年	企業訪問(ニーズ把握、地域日本語教室説明等)【9/1, 9/16】	*市内事業所の現状把握と教室開催に向けての企業・事業所へのヒアリング(満留)	
	KIZUNA準備(募集開始)	*教室運営準備、回覧板チラシ配布(CD)	
9月	野尻地区アウトリーチ:KIZUNA準備	*野尻地区内容打合せ、教材テーマ確定、企業へ訪問、教室内容について最終打合せ(CD)	
	野尻地区アウトリーチ①【9/25】	*PCとサポーター打合せと事後振り返り、教室運営(CD)	
	職員研修準備	*職員研修資料作成補助・出欠者確認(満留)	
令和4年	野尻地区アウトリーチ②③【10/2, 10/9】	*PCとサポーター打合せと事後振り返り、教室運営(CD)	高柳アドバイザー★
	中心地:KIZUNA準備	*教室運営準備	
10月	職員研修【10/26(午前・午後)】	*職員研修資料作成補助・研修補助(満留)	
	企業訪問(ニーズ把握、地域日本語教室説明等)【10/28】	*市内事業所の現状把握と教室開催に向けての企業・事業所へのヒアリング(満留・李)	
令和4年	中心地:KIZUNA①②③【11/6, 11/13, 11/20】	*PCとサポーター打合せと事後振り返り、教室運営(CD)	
	第2回サポーター養成講座準備(フォローアップ編)	*講座内容の最終打合せ、資料準備等(満留)	
11月	コーディネーター会議【11/30】	*今年度の教室活動の振り返りと課題点の洗い出し(CD)	
令和4年	第2回サポーター養成講座(フォローアップ編)【12/10】	*講座運営(CD)	
	中心地:KIZUNA④⑤⑥【12/4, 12/11, 12/18】	*PCとサポーター打合せと事後振り返り、教室運営(CD)	
12月	コーディネーター会議【12/29】	*今年度の日本語教室の振り返り、教材内容について協議する(CD)	
令和5年	アドバイザー会議【1/12】	*2月開催の地域日本語教育フォーラムの内容について検討(満留)	平高氏(遠隔) 高柳氏(遠隔) 深江氏(遠隔) フォーラムについて助言(オンライン)
	文化庁中間報告書〆切【1/13】	*報告書作成(満留)	
1月	フォーラム準備	*プログラムコーディネーターとサポーターへ発表内容説明(満留)	
令和5年	小林市地域日本語教育フォーラム【2/4】	*プログラムコーディネーター発表(李氏)	フォーラム: 平高氏★(検討会議含む) 高柳氏★ 深江氏(遠隔)
	小林市地域日本語教育教材作成有識者検討会議【2/5】		
2月	第2回関係者会議【2/24】	*報告書作成に係る助言、事業のふりかえり(CD)	関係者会議: 平高氏(遠隔) 高柳氏(遠隔) 深江氏(遠隔)
	地元ラジオ「んぐモンタン西諸ラジオ」出演【2/25放送】	*KIZUNAの活動について紹介(満留、李)	

令和 5 年 3 月	報告書提出【〆切 3/10】	*報告書作成(満留)	
---------------	----------------	------------	--

## (2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	地域日本語教室 KIZUNA <a href="https://www.city.kobayashi.lg.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakubuchihososeika/yasasiinihonngo/manabu/4369.html">https://www.city.kobayashi.lg.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakubuchihososeika/yasasiinihonngo/manabu/4369.html</a>						
外国人参加者について	[国籍]インドネシア 13 名、ベトナム 21 名、ドイツ 3 名、フィリピン 5 名、ミャンマー 2 名、バングラデシュ 1 名 [属性]技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象						
参加者数 (内外国人数)	受講者 61 名 支援者 17 名 (日本語指導者 3 名、サポーター 14 名)						
開催時間数	総時間 18 時間			内訳 2 時間 × 9 回			
目標	①外国人参加者が対話を通して、生活に必要な日本語を習得することができる。 ②小林市で生活していく上で必要な情報や知りたいことを知ることができる。 ③小林市の文化や参加する外国人市民の文化について知ることができる。 ④参加者がコミュニケーションに対する不安を解消し、安心して地域社会に参加できるようになる。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2022年 9月 25 日 (日) 10:00～ 12:00	2	野尻町いき いきコミュニ ティセンター	5	自己紹介	・単語チェック ・会話を覚えましょう ・文型 ・グループワーク	日本語指導者1名 サポーター3名 CD2名
2	2022年 10月 2 日 (日) 10:00～ 12:00	2	野尻町いき いきコミュニ ティセンター	4	災害に備え よう	・自己紹介・ウォームアップ ・台風に備えて ・避難所に行くとき ・備蓄について	日本語指導者1名 サポーター3名 CD2名
3	2022年 10月 9 日 (日) 10:00～ 12:00	2	野尻町いき いきコミュニ ティセンター	3	ゆーぱるのじ り探検	・宮崎県のことを知る ・観光スポット、遺跡など ・町の観光スポットについて 知る ・方言(西諸弁)について	日本語指導者1名 サポーター3名 CD2名
4	2022年 11月 13 日 (日) 10:00～ 12:00	2	TENAMU ビ ル 交流スペ ース	5	よかとこ小林	・自己紹介 ・地図クイズ ・市のイベントカレンダー ・自国のイベント	日本語指導者1名 サポーター2名 CD2名
5	2022年 11月 20 日 (日) 10:00～ 12:00	2	TENAMU ビ ル 交流スペ ース	25	日本文化に ついて:浴衣	・浴衣の説明 ・着付け&写真撮影 ・写真を貼って、家族へメッセ ージカードを送る	日本語指導者1名 サポーター10名 CD3名
6	2022年 11月 27 日 (日) 10:00～ 12:00	2	TENAMU ビ ル 交流スペ ース	2	こばやしまち 歩き	・クイズラリー ・小林駅の利用説明 ・バスの時刻表について	日本語指導者1名 サポーター2名 CD2名
7	2022年 12月 4 日 (日) 10:00～ 12:00	2	TENAMU ビ ル 交流スペ ース	2	クイズ大会	・小林について ・日本の文化について	日本語指導者1名 サポーター4名 CD2名

8	2022年 12月11日 (日) 10:00~ 12:00	2	TENAMU ビル 交流スペース	8	年賀状作り	・新年のあいさつ ・干支 ・年賀状の書き方説明 ・年賀状作成と交換	日本語指導者1名 サポーター6名 CD 3名
9	2022年 12月18日 (日) 10:00~ 12:00	2	TENAMU ビル 交流スペース	7	買い物	・買い物するときの語彙 ・ワーク: 買い物をしてみよう	日本語指導者1名 サポーター4名 CD 3名

【主な活動】



アウトリーチ型教室「災害に備えよう」地元の公民館で、非常用持ち出し袋について確認をする参加者。



中心地型教室「年賀状づくり」サポーターが「年賀」の書き方を参加者に教えている様子。



中心地型教室「買い物」で日本語教師が食品のパッケージに表示されているアレルギーの説明をしている様子。

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	(1)問題:参加者の出欠確認が難しい→対応策:メッセージグループを作って、随時連絡が取れるように取り組んでいる (2)問題:参加者の確保が難しい→対応策:①市内企業を訪問し、外国人従業員への教室案内を依頼、②積極的に教室の宣伝(SNSで募集、活動報告を行う)、③少人数参加の場合の対応策も事前に考えておく、④教室の開催を2拠点で行ったことにより、中心地まで来られない参加者が教室に来られるようになった。
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
地域日本語教室 KIZUNA2022 年度オリエンテーション	8月27日 10:00~12:00 (2時間)	昨年度登録した地域日本語教育サポーターを対象に、小林市で実施する「地域日本語教室 KIZUNA」で活動するために必要な知識と課題について学ぶ 【参加者人数】7名 講座内容: 1. オリエンテーション(今年度の KIZUNA の計画について、今後の地域日本語教室について説明(担当:満留)) 2. 教室実施のためのワークショップ(講師:深江新太郎氏)
職員研修	10月26日 第1回 10:00~11:30 第2回 13:30~15:00	業務に役立つやさしい日本語 ・市役所からの通知や書類の書き方、窓口での会話に不自由している外国人もいると想定されることから、わかりやすい言葉で情報を提供できるようになる ・やさしい日本語でコミュニケーションを取れるようになる 【参加者人数】午前15名、午後14名 研修内容(講師:高柳香代氏) 1. 外国人住民の背景を理解する 2. やさしい日本語の作り方 3. 窓口対応でのやさしい日本語の留意点

地域日本語教育サポーター養成講座(フォローアップ編)	12月10日 10:00~12:00 (2時間)	今年度実施した地域日本語教室のふりかえりと今後の教室活動の内容確認 【参加者人数】7名 講座内容(講師:深江新太郎氏) ・第5回、第6回の教室について ・今年度の教室について ・教室の目標とターゲット
コーディネーター会議	6月~12月	日本語教室自走と継続のための協議。 【第1回】 日時:6月17日、10時から11時45分 内容:令和4年度の事業計画検討 【第2回】 日時:6月30日、10時30分から11時30分 内容:令和4年度事業計画検討 【第3回】11月30日、10時30分から12時 内容:今年度の教室実施状況、県内の日本語教室の状況 【第4回】 日時:12月29日10時から11時45分 内容:KIZUNA 運営中の課題と検討
関係者会議	2022年7月~ 2023年2月	日本語教室の実施検討のために、アドバイザーを招聘し助言指導を受ける 【1回目】 日時:2022年7月6日13時から14時30分 参加者:平高氏、深江氏、高柳氏(全3人) 内容:今年度の事業内容検討と事業計画書について  【2回目】 日時:2023年2月24日10時から11時30分 参加者:平高氏、深江氏、高柳氏(全3人) 内容:今年度の振り返りと来年度の事業について
小林市地域日本語教育フォーラム	2023年 2月4日 10:00~12:00 (2時間)	本市の地域日本語教室に携わったサポーターや日本語教師と活動を振り返り、今後の活動展開について共有する 【参加者人数】 内容: 1. 趣旨説明 2. 基調講演(講師:平高 史也氏) 3. 事例報告(高校生、サポーター、プログラムコーディネーター) 4. 取組みのふりかえり  <a href="https://www.city.kobayashi.lg.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakubuchihososeika/yasasiinohonngo/manabu/6725.html">https://www.city.kobayashi.lg.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakubuchihososeika/yasasiinohonngo/manabu/6725.html</a>
地域日本語教育に関する広報・周知活動	2022年 12月8日   2023年1月   2023年 2月10日	講演会「多文化共生社会を目指して~KIZUNA と共に創るまちづくり」 <a href="https://www.pref.miyazaki.lg.jp/allmiyazaki/kanko/koryu/20221027151130.html">https://www.pref.miyazaki.lg.jp/allmiyazaki/kanko/koryu/20221027151130.html</a>  広報こばやし1月号(表紙、プログラムコーディネーター紹介、日本語教室活動記事掲載) <a href="https://www.city.kobayashi.lg.jp/material/files/group/1/20230101_all.pdf">https://www.city.kobayashi.lg.jp/material/files/group/1/20230101_all.pdf</a>  宮崎日日新聞「日本語教育で地域活性化 小林市民らフォーラム」 <a href="https://www.the-miyanichi.co.jp/chiiki/category_11/_69395.html">https://www.the-miyanichi.co.jp/chiiki/category_11/_69395.html</a>

	2023 年 2 月 25 日 14 時～ 14 時 30 分	宮崎放送「ンダモシタン西諸ラジオ出演」 地元ラジオで地域日本語教室 KIZUNA の取組を紹介(目的、日時、場所、コーディネーターの役割など) <a href="https://mrt.jp/radio/nishimoro/">https://mrt.jp/radio/nishimoro/</a>
--	--	---

### 【主な活動】



職員研修「業務に役立つやさしい日本語」で AD の高柳先生がグループワークの説明を行っている様子。



「地域日本語教育サポーター養成講座フォローアップ」で深江先生の助言を受けて、地元高校生が教室の企画を発表し、サポーターと内容について協議した様子。



「小林市地域日本語教育フォーラム」で事業のふりかえり後、平高先生と集合写真。

### 5. 今年度事業全体について

進捗状況	<p>最終年度の4年目は、教室を安定して運営していくため、市内中心部と外国人が散在して居住している地区での2拠点を教室を開催した。また、昨年度養成したサポーターを対象に、サポーター養成講座を開催した。その結果、2～3名のサポーターがそれぞれの教室で活動され学習者と活発な対話が生まれた。養成講座の中で、地元高校生がサポーターやコーディネーターのサポートを得ながら、教室の企画・運営を行い、教室(着付け体験と年賀状づくり)を実施した。</p> <p>また、昨年度開催したコーディネーター講座を受講した1名の日本語教師を更に獲得し、対話型の地域日本語教室を3名の日本語教師で実施できた。地域日本語教室 KIZUNA では、様々な背景を持つ外国人住民が教室に参加し、毎回テーマを生活に根ざしたものにし、対話を中心に教室を開催できた。</p>
事業推進にあたり問題点と対応策	<p>「教室の立ち上げに係る問題とその対応策」に明記</p>
成果	<p>地域日本語教育サポーターのスキルアップを図るため、本年度本格始動した教室に参加した際の課題点やアイデアを養成講座の中で共有できた。</p> <p>地域日本語教室「KIZUNA」を中心地型とアウトリーチ型で実施し、市内中心部より遠くに住む外国人の参加があった。</p> <p>職員の外国人支援やコミュニケーション支援に関する意識啓発を職員研修をとおして行うことができた。</p> <p>「小林市地域日本語教育フォーラム」をとおして、4年間の事業のふりかえりをアドバイザー、サポーター、プログラムコーディネーター、システムコーディネーターとできた。</p>
地域の関係者との連携による効果	<p>今年度は、市職員・日本語教師と一緒に市内企業を教室開催前に訪問し、企業の外国人の雇用環境をヒアリングし、教室の説明を行った。その結果、企業担当者をとおして教室への参加申し込みがあった。</p> <p>企業訪問を行った中から、外国人支援の担当者が、教室見学に来られた。また、地元高校生が学校の授業の一環で研究テーマを「外国人支援」として地域日本語教室 KIZUNA と連携をして、教室の企画・運営を行った。その結果、多くの参加が見られた。</p>

<p>コーディネーターの 主な活動</p>	<p><b>プログラムコーディネーター</b>  ① 参加者募集に関する業務(応募者にメール、民間団体との話し合い等)(約4H)  ② カリキュラム案の作成・検討・調整(約 33H)  ③ 日本語教室で使用するプリント作成に関する業務(約 21H)  ④地域のリソース等の把握(昨年度システムコーディネーターが訪問した企業を再度訪問)(28H)</p> <p><b>システムコーディネーター</b>  ① 事業全体のコーディネート(年間スケジュールの検討、全事業の案作成その後、運営側と協議)(約 155H)  ② 地域のリソース等の把握(企業訪問、教室活動のための公共施設や商業施設へ訪問など)(約 22H)  ③ 行政・関係機関との連絡調整(約 20H)</p>
<p>アドバイザーの 主な助言</p>	<p><b>日本語教室の具体的な内容についてのアドバイス</b>  (1)教室のターゲットをより絞ったほうがよい(①日本に来て間もなく、生活用日本語が至急必要な人②すべての外国人←この2種類の方の参加を想定して、シラバスを作成する)。【深江先生より】  (2)文化庁の公開カリキュラム案などを活用し、小林市の教材バンクを作る。【平高先生より】  (3)教室で何を教えていくだけでなく、その内容をどのように教えていくかも大事【高柳先生より】</p> <p><b>小林市の地域日本語教育と施策との関連についてのアドバイス</b>  (1)具体的な教育内容だけに焦点をあてるのではなく、5年後、10年後、小林市のありたい姿を明確にしたうえで、長期目標を立てていくと事業の全体像と未来像が見えて、そこを指針にして教室の内容を決めてみてはどうか。【深江先生、高柳先生より】  (2)市単体でできる事と、もっと広域で取り組んでいくべきことがある。県との連携は今後小林市が自走していく中で必要不可欠。県と連携して、様々な関係団体や県内の他の地域(県西地域との連携)とのネットワークを構築する。【高柳先生より】</p>
<p>今後の課題</p>	<p><b>地域づくりと日本語教育の未来像の構築</b>  * 地域日本語教育という居場所をとおして、小林市で暮らす市民が安心して生活できるために以下のことを目指していく。  -自分の言葉で対話でき、思いや考えを表現できる  -日本人と外国人市民の交流が生まれ、顔の見える関係性の構築ができる  -地域日本語教室で活躍する人が地域社会へ参画できる</p> <p><b>安定した地域日本語教室の実施</b>  * 参加者の確保が課題となることが予想される。本市に多く在住する「技能実習」の参加も促すため、開催場所と開催時間などの調整を検討する必要がある。  * 募集手段を検討する(ニーズのある方に教室の情報を届けるよう、また、運営側だけでなく、学習者の力も借りて宣伝するよう、工夫が必要である)。  * 教材作成に工夫する(無料公開の教材+自作ワークシートを併用する予定であるが、如何に効率的に教材を作成するのか、また、如何に学習者のニーズ及び小林市の事情に沿った教材を作成するのかは、今後の実践の中で考えないといけない)。  * 次年度より教室の開催回数を増やす予定となるが、天候の悪い日(梅雨の時期など)の交通手段を検討する必要がある。  * 生活用日本語以外のニーズも応えるよう、教室活動の時間配分や教室だよりの利用など補足手段も考える必要がある。  * サポーター主体の活動と日本語教師主体の教室活動の連動が必要不可欠。</p> <p><b>年間の教室内容の明確化</b>  参加者が年間を通じて教室の内容を理解するためのシラバスや教材を募集の段階から確定する必要がある</p> <p><b>サポーターの育成</b>  現サポーターのスキルアップと新規開拓のための講座を毎年開催していく必要がある</p> <p><b>地域日本語教室の周知活動</b>  * 学習者確保のために、様々な媒体(SNS,広報、メディア)を通じて活動を紹介する  * 学習者を取り巻く関係者・機関との連携を図るためにも、教室活動の説明を行っていく</p> <p><b>運営側の課題解決に向けたネットワークづくり</b>  次年度以降、自走で教室運営を行う中で、表出してくる課題に関して解決するには市単体では難しいと予想されることから、広域(県西地区や宮崎県や関連する機関など)での連携が必要になる。</p>

<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心地と遠隔地の 2 拠点で教室活動を実施、コロナ禍においても安全に、継続的に事業を行う。</li> <li>・地域日本語教育サポーターのスキルアップを行う。</li> <li>・市広報誌やホームページ、Facebook 等を活用して参加を呼び掛ける。情報発信を充実させる。</li> <li>・教室運営などに係る課題解決に向けて県西地区や宮崎県、関係機関と連携できるようネットワーク構築の検討を図る。</li> </ul> <p>コロナの影響を考慮しながらの事業でしたが、アドバイザーや関係機関等からのサポートを受けることで着実に教室のコンセプト、人材発掘・育成、教室開催できたことは今後の安定した教室運営へと繋がると考えています。今後も、この事業で学んだことを活かして、外国人・日本人共に暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>
--------------	---

本件担当： 小林市役所地方創生課